

原口 誠

Haraguchi Makoto

勝山高校で情報Iを
教えています



まちと学びのイノ
ベーション研究所の
顧問を務めています



原口 誠さん(久世)

佐賀県小城町(現小城市)出身。
九州大学修士・博士(理学)。東京工業大学システム科学
専攻助教授、北海道大学工学部・情報科学研究科教授を
経て現在、北海道大学名誉教授。まちと学びのイノベ
ーション研究所顧問。今年度4月から勝山高校の非常勤講師
として情報Iを担当。

が、とても楽しい。試行錯誤して、失敗してもそ
れを許容して。これはダメだったから、これは失
敗したからこうしようという議論につながりま
す」それが大切なことだと教えてくれました。
「簡単には答えは見つからないかもしれないか
ら、何度も失敗しながら、何度も失敗しながら
やっていきましょ
うという文化を形
成していくことが
大事だと思いま
す」と力強く話し
てくれました。

真 庭 人

MANIWA BITO

興味を持ってもらえる授業を目指して

今年度から勝山高校の非常勤講師になった原口さ
ん。真庭に来てみると、故郷の佐賀県小城市小城町
(現小城市)と似ていて、親近感を覚えたそうです。

原口さんは、今年度入学した生徒から必修とな
った、情報Iの授業を教えています。この授業は
チームティーチングを行っており、教員も互いに
教え合い、より良い授業にしようと試行錯誤を重
ねながら進めているそうです。授業を行うにあた
っては、生徒の持っているものを引き出すことを
心がけているとのこと。興味を持ってもらえる授
業、面白いと思ってもらえる授業をやりたいと思

っており、「ついでこれなくなる生徒もいます。そ
れをいかに防ぐかを考え、修正を心掛ける毎日で
す」と話します。

何度も失敗しながらやっていきましょ

原口さんは、昨年11月に真庭にできた、まちと
学びのイノベーション研究所の顧問を務めていま
す。研究所の理念は、地域と一体化した学びの場
を作ること。高校という学びの場を拡大するため
に、何らかの形で高校生がまちに出るような探求
型の学習を目指しています。「予測不可能、答えが
ない時代である現代は、一通りではない答えを創
造することが求められています。それはとても苦しい

